

横浜市立大学後援会

NEWS LETTER

2015



(仮称) 学生交流センター完成イメージ (平成28年春に完成)

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 馬場 彰

昭和33年商学部卒
現(株)オンワードホールディングス名誉顧問

会員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動へのご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。後援会は、学生の皆さんがこの横浜市立大学で充実した学生生活を送ることができるように支援することを目的に、学業、課外活動及び福利厚生について様々な事業に取り組んでいます。

現在、金沢八景キャンパスでは、平成28年春に完成する学生交流センター（仮称）の新築工事や本校舎の耐震工事が行われており、大学の環境も充実してきています。後援会としても更なる環境改善に貢献してまいりたいと考えています。

平成26年度より、保護者の方からいただく会費収入に加えて卒業生に寄附金をお願いすることとなりましたが、多くの方々に納入していただきましてありがとうございました。引き続き、学生の皆さんへのご支援をお願い申し上げます。

毎年発行しているこの「NEWS LETTER」（会報）をご覧ください、学生たちの取り組みをご確認いただければと存じます。ご意見ご感想がございましたら事務局までご連絡をお願い申し上げます。

今後も後援会としても横浜市立大学の存在感を高めていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



学長挨拶

横浜市立大学 学長 窪田 吉信

馬場会長をはじめ横浜市立大学後援会の皆様方には、平素より、本学に対して大変ご支援をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、私達の横浜市立大学は、社会の急速なグローバル化や少子高齢化の中で、厳しい大学間競争に打ち勝てる、本学ならではの存在感を打ち出すことが求められています。そうした中、本学は世界で活躍できる共感力、発信力、課題解決力などを備えたグローバルに通用する人材を育成するとともに、先進的な研究と診療を行い、その成果を世界に発信しています。また横浜の都市社会インフラとして、日々、横浜市と共に歩んでおります。

これまで本学は、他大学に先駆けて大学改革を進めてまいりましたが、今は更に「質の向上」を進めています。例を挙げると、従来のPractical English（英語教育）のアドバンスコースの拡充など更なる充実や、教員の研究力の向上と研究成果の積極的発信、社会のニーズを先取りしたより高度な医療の提供と診療機能の更なる充実などです。教育・研究・診療の質を向上させていますが、また、「特色」を出すことも意識しており、「横浜から世界に羽ばたく」注目される横浜市立大学となることを目指しています。

そのためには、保護者の皆様やOBの方々をはじめとする、後援会の皆様の一層の御協力を賜ることが必要です。後援会の皆様方には、これまでも、学習活動やクラブ活動等への支援をはじめ、留学関係や就職関係の事業への支援等、幅広い御支援をいただいておりますが、引き続き、学生生活の改善と大学の使命達成のため、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



学部長挨拶

後援会常務理事（国際総合科学部長） 中條 祐介

グローバル人材育成競争

後援会会員の皆様におかれましては、本学の教育にお力添えいただき、心より感謝申し上げます。平成27年度も前期を無事に終えることができました。下半期は浜大祭、メディカルフェスティバル、運動部のリーグ戦や文化部の成果発表、卒業論文の提出など、行事その他が目白押しです。皆様のお力添えに支えられ、学生達も大きな成果を上げてくれるものと期待しています。

さて、現在、わが国の大学は、グローバル人材の育成競争に邁進しているといった様相を呈しています。この競争から脱落することは、大学の序列にも影響することが予想されるので、なにがあっても脱落することは許されません。

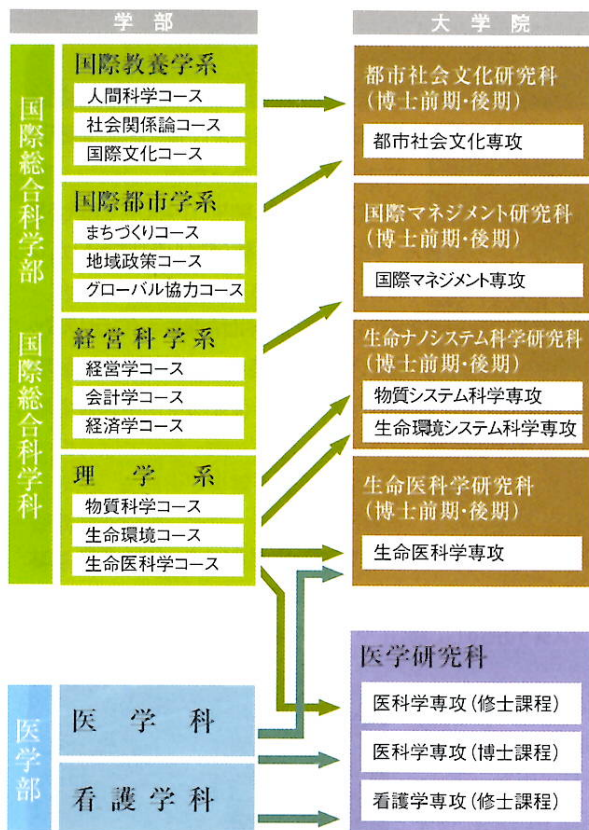
しかしながら、肝心の“グローバル人材”についての概念は、いまだ合意されているとはいえず、そのため大学によって“グローバル人材”の意味するところは様々ではありません。たしかに、英語が話せて、留学経験のある者をグローバル人材と捉える見方もあるようですが、少なくとも企業の採用担当者はこのような考えには与していないようです。特に、海外売上高比率の高い企業においては、現地法人の管理者に対する需要が多いそうです。そういった要員には、まず日本を説明できること、多様な価値観を受容できること、そして核となる専門性をもっていることが求められるそうです。

もちろん、このような資質が普遍的なものなのかは議論の余地があるかもしれませんが、しかしながら、YCU版の“グローバル人材”を定義し、育成していくうえでは参考にすべきと考えます。現在、国際総合科学部では学系ごとに“グローバル”を定義し、これをカリキュラムに反映させる作業を進めています。「英語+もう1か国語」であるとか、「自身の研究の要旨を英語で記述する」など具体的な方向が議論されています。

いずれにしても、本学のグローバル人材育成に向けた取り組みには、後援会からの支援が欠かせません。グローバル人材の育成力No.1を目指して邁進してまいりますので、今後ともご支援・ご協力の程、よろしくお願い致します。



学部・大学院構成



英語教育の柱

技法の修得

Practical English

国際水準の英語によるコミュニケーション能力を身につける

Practical Englishの目的は、大学における知的活動を英語によって行えるレベルのコミュニケーション能力を身につけ、それぞれの専門分野を学んでいくためのスターティングポイントに立つことにあります。授業は、4つの基本的なスキル(読む・書く・話す・聞く)を使いながらすべて英語で進められ、英語を使うこと、英語で考えること、英語で学ぶことを修得します。到達度を客観的な基準(TOEFL-ITP)で測り、500点相当を最低達成水準として設定しているほか、単位の取得には、授業への8割以上の出席も求められます。授業カリキュラムの作成と運営、個別カウンセリングなどをはじめ、様々な学生のサポートはPractical English Centerが行います。



Practical Englishの単位取得が、国際総合科学部では3年次、医学部医学科では2年次連続の必須要件

技法の修得

Advanced Practical English

PEクリアは、ゴールではなくスタート

Practical Englishで到達したTOEFL500点という水準は、あくまでもスタート地点です。

Advanced Practical Englishでは、このスタート地点に立った学生が、留学や国際協力といった様々な活動を本格的に行うことができる力を身につけられるよう、レベル別、目的別のクラスを用意しています。また、YCUで提供している学生海外派遣プログラムとも連携し、TOEFL-iBTの受験や、英語圏の大学学部レベルの授業に必要なスキルの養成にも対応します。英語を使って世界に羽ばたく学生をサポートします。

学生生活

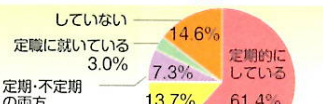
Q1

現在住んでいるところは？



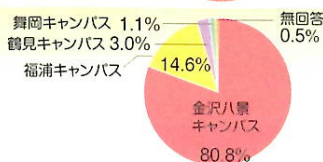
Q2

アルバイトしてる？



Q3

通学キャンパスは？



Q4 キャンパス内でくつろぐ場所は？ (複数回答あり)

食堂、リフレッシュルーム(舞岡キャンパス)	1230人
サークル棟	696人
学生交流ラウンジ、いちよの館などのオープンスペース	423人
学術情報センター、医学情報センター、図書室	460人
情報教育実習室、情報処理教室、情報実習室	86人
LL教室、資料室(舞岡キャンパス)	87人
研究室・大学院自習室・自習室	359人
屋外(ベンチ等)	241人
特になし	351人
その他	186人

年間スケジュール

■ 共通年間スケジュール 国際総合科学部/医学部
■ 金沢八景キャンパス 国際総合科学部(1~4年)/医学部(1年)/大学院
■ 福浦キャンパス 医学部 医学科(2~6年)・看護学科(2~4年)/大学院

- 4月 入学式/新入生オリエンテーション/前期授業開始/履修登録申請
1学期授業開始(医学科)/前期授業開始(看護学科)
- 5月 新入生合宿(医学科)
- 6月 首都大学東京との定期戦/プレ・オープンキャンパス
- 7月 東日本医科学生総合体育大会
- 8月 前期終了・夏季休暇/セミ合宿/海外派遣プログラム(夏期)
国際総合科学部 オープンキャンパス/兵庫県立大学の定期戦/関東甲信越大学体育大会
医学科オープンキャンパス/看護学科オープンキャンパス
- 9月 後期授業開始/後期履修申請
2学期授業開始(医学科)/後期授業開始(看護学科)/
実験動物慰霊祭(医3年)/御遺骨返還式(医2・6年)
- 11月 浜大祭
Medical Festival/医学のために献体された方々への感謝の集い
- 12月 冬季休暇
国際総合科学部 卒業論文提出
- 1月 卒業論文発表会(文系)
3学期授業開始(医学科)/共用試験CBT(医4年)
- 2月 後期終了/海外派遣プログラム(春期)
卒業論文発表会(理系)
医師国家試験/看護師/保健師国家試験/共用試験OSCE(医4年)
- 3月 卒業式
白衣授与式(医4年)

学術情報センター（図書館）

学術情報センターでは、学生の学習・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約65万冊の図書、約1万1千タイトルの雑誌、約2万4千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学習・研究をしています。館内には400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学習スタイルをサポートしています。

学習サポートの一環として、図書館職員による学習・研究のアドバイス（レファレンスサービス）のほか、図書館の活用法を身に付けた学生ライブラリストップによる相談も受け付けています。学生ライブラリストッフは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、図書館をより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度を設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学習・研究環境が一層充実しています。

平成26年度は、昨年度に引き続き有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書を寄贈いただきました。「学生選書」による寄贈図書は平成27年4月に企画展示も行い、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学習方法、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『明日使える世界のビジネス書をあらすじで読む』や『映画のなかのちょっといい英語』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。

利用者用パソコンの更新

図書館内には、自習や情報検索、データベースの利用など、学生の学習・研究をサポートするために必要なパソコンが設置されています。

平成27年度は、後援会からの寄贈により、老朽化した利用者用パソコン25台の買い替えを行います。より快適な学習・研究環境を提供できるようになり、様々な学習スタイルに合わせて活用されています。



ゼミ活動

経営学コース 4年 松原 紗希

柴田典子ゼミは、マーケティングと消費者行動論を専門とし、理論と実践から現実世界のマーケティングを様々な角度から分析・研究する能力の修得を目指しています。2年次に理論と分析方法の基礎を学び、3年次で神奈川産学チャレンジプログラムに参加します。各チームが最優秀賞を目標に研究活動に励んでいます。4年次は集大成として卒業論文の執筆です。厳しくも充実した活動をしています。

春と夏に行われるゼミ合宿は、柴田ゼミを端的に表す活動の1つです。各学年の研究発表と意見交換に加え、夜通し取り組むケーススタディが特徴です。学年を混ぜた数グループで行われ、翌日に発表です。上級生にとっては培った能力の発揮や後輩を率いる責任感を養う場として、下級生にとっては先輩の発表を聞いたり助言をもらったりする、新たな知識を吸収する場となっています。柴田ゼミの学年を超えたコミュニケーションが、神奈川産学チャレンジプログラムにおける毎年多くの受賞歴に大きく結びついていると感じています。

合宿だけではありませんが、後援会のご支援によりこのような活動ができることを感謝しております。今後も更り多い活動ができるようゼミ生一同努力していきます。



国内学会発表

都市社会文化専攻 博士後期課程 今野 順

名古屋市、中京大学にて2014年8月30日（土）～31日（日）に開催された「日本応用心理学会 第81回大会」に参加し、研究発表をおこなった。この第81回大会では、「臓器移植に対する態度構造分析」を主テーマとして共同研究をおこない、代表者として「援助規範における交換規範と返済規範が臓器移植への関心におよぼす影響」を発表し、セカンドとして「社会的望ましさや臓器移植への関心および臓器提供意思表示行動の関連性の検討」を発表した。

臓器移植について、内閣府は臓器移植に関する世論調査を1998年からおこなっており、年々肯定的な回答が増えていることを発表している。しかし、臓器提供者数は増えず、臓器提供意思表示をおこなっている人も10%代と現在も自らの判断を決めかねている人は少なくない。日本は他国と比べ、深刻な臓器不足が続いている。このような中で、臓器提供、臓器提供意思表示が行えない心的要因を解明すべく心理学的解明をおこなっている。

本学会での質疑応答では、様々な質問コメントを頂くことが出来、非常に有意義な時間となった。特に、同分野である看護系の先生や心理尺度作成の検討をされている先生からの質問やアドバイスはとても参考になり、良い刺激となった。

Campus Life

学生生活
サポート

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

今年度は9月28日（月）、八景キャンパス「シーガルホール」において、平成27年度伊藤雅俊奨学生並びに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催。学生・教員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。



学長賞・学長奨励賞

横浜市立大学では本学の名譽を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対し、「学長賞・学長奨励賞」を授与しています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

平成26年の学長賞は12月に行われた第3回全日本学生英語プレゼンテーションコンテストで最優秀賞を受賞し、語学力を活用した複数の社会貢献活動に参加した国際総合科学部 国際総合科学科 1年（受賞当時）の太田杏奈さんが受賞されました。

学長奨励賞には個人の部として、第16回国際ベッチェット病会議で最優秀演題賞受賞をはじめ複数の国際学術集会で賞を受賞した竹内正樹さん、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）に関する論文が消化器病の国際的な学術誌に掲載され複数の国際学術集会で賞を受賞した結束貴臣さん（ともに医学研究科）、有機超弾性の観測に世界で初めて成功した宮本泰宏さん（生命ナノシステム科学研究科）、全国の学生を被災地でのボランティア活動および事後活動に参加させる「きっかけバス47プロジェクト」の代表を務めた弥富彬さん、第49回天野杯全日本大学生大会及び第30回野田市長杯優勝をはじめ複数の英語弁論大会で入賞した上田真理子さん（ともに国際総合科学部）の5名が受賞されました。

また、団体部門では、地域対抗「知財活用アイデア」プレゼン全国大会in東京で優秀賞受賞及び第11回神奈川県産学チャレンジプログラムで最優秀賞受賞の山藤竜太郎ゼミナール「アボカドむーん」、第21回横浜環境活動賞児童・生徒・学生の部実践賞受賞及び第12回全国大学生環境活動コンテスト入賞の環境ボランティア StepUp↑、学生発案のエクステンション講座「夏休み親子実験教室」が全講座の中で昨年に引き続き受講者満足度No.1に輝いた科学倶楽部とその仲間たちの4団体が受賞されました。



写真上は学長賞表彰式、下は学長奨励賞表彰式

保護者説明会



在学生保護者対象説明会を各キャンパス及び地方会場（名古屋、大阪）で開催しました。開催にあたり後援会からは、保護者の方の昼食代や説明会の案内発送費用等を助成いただきました。

保護者の方に本学の教育・研究・学生支援等の取組みや学生のキャンパスライフについてご理解いただくことを目的に開始した保護者対象説明会も今年で4年目となりました。今年度は、学生の生の声を保護者の方々にお届けするべく、学生による自身の学生生活に関する講演や学生団体による音楽・ダンスのパフォーマンス等、新たな試みを取り入れ更なる内容の充実を図り、保護者の方からもご好評いただきました。また、神奈川県外にお住まいの保護者の方々への周知を強化したことで、地方会場（名古屋、大阪ともに）の来場者数が過去最多を記録しました。なお、金沢八景キャンパスでは同日に後援会の総会も開催し、出席された保護者の方々へ後援会の取り組みをご紹介しました。

卒業生送別祝賀会



平成26年度は、国際総合科学部711名、大学院109名がそれぞれ卒業・修了しました。学位記授与式後の祝賀会は6つの会場に分かれ多くの指導教員も加わり、大変賑やかに開催されました。

平成26年度は平成25年度に設置した生命医科学研究科より、初めて生命医科学専攻の博士前期課程32名が修了しました。

例年、八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部ではコース、大学院では専攻に分かれて学位記の授与式を行っております。後援会の助成により、学内の会場における祝賀会を実施しています。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇親会

専任教員及び平成27年度非常勤講師予定者を対象とした国際総合科学部FD研修会が平成27年3月3日（火）に実施されました。

アクティブラーニングの専門家を講師として招き、アクティブラーニングの普及状況や本学の状況を確認し、様々な立場の参加者を交えてディスカッションを行うことにより、実質的なカリキュラムを構築するための情報収集を行うとともに、カリキュラムの具体的な設計方法を検討することを目的に開催され、当日は38名の教職員及び学生の参加がありました。

今回は、河合塾教育研究開発本部教育研究部の野吾教行氏に、「全国的なアクティブラーニングの普及状況とグッドプラクティスの報告」についてご講演いただきました。講演を踏まえ、本学の国際都市学系の状況を中心に、カリキュラムの具体的な設計方法について、専任教員・非常勤講師・学生も交えて意見交換を行い、本学で教育に従事する教員、またそれを受講する学生が共通認識を持つことができ、次年度に向けての参考材料とすることができました。

また、FD研修会終了後は後援会の助成により懇親会を開催し、20名の教職員の参加があり、親睦を深めました。毎年後援会よりご支援をいただくことで、日頃は顔を合わせる機会の少ない非常勤講師同士や、教員管理職を中心とした本学教員が意見交換及び情報共有を行い、また授業における課題や要望等を聴取することにより、本学の学部教育のさらなる改善に役立てることができ、大変有意義な機会となりました。



経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計や学業成績を審査のうえ、経済的困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。

平成27年度は、昨年度に引き続き支援を必要とする学生が制度を理解し、申請を行えるよう制度周知の強化を行った結果、申請者数・適格認定者数がいずれも過去最多となりました。

また、授業料の減免以外にも、日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金の案内、手続きのサポートを行っています。

第65回浜大祭

平素より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

さて、私たち浜大祭実行委員会は、本学の学園祭である浜大祭をより魅力的なものにし、多くのお客様に来場していただき、楽しんでいただくにはどうすればよいかを念頭に、日々活動に励んでいます。

今年度の浜大祭のテーマは「協創曲第65番」です。昨年度のテーマである「ヨコイチ.COM ~ with you ~」に引き続き、多くの人と一つにまとまるために、委員だけで学園祭を作っていくのではなく、市大の学生、地域の方も巻き込んで学園祭を作っていくという目標を掲げ、活動を行ってまいりました。そのために、様々なつながりを大切にしていきたいと考えております。具体的には、今

自分たちが何をしているのか、どのような活動を行っているのかを積極的に発信し、学内外に対して出演の募集を例年以上に積極的に行うことにより、より多くの人に関わるような浜大祭を作り上げていこうと考えております。浜大祭に来て良かったと思っていただけるような学園祭をつくっていききたいと思っています。ぜひ、浜大祭へお越しください。10月30日（金）から11月1日（日）の3日間、金沢八景キャンパスにて皆様のご来場をこころよりお待ちしております。



第65回浜大祭実行委員会委員長 小峰 奏

第64回関東甲信越大学体育大会

平成27年8月16日（日）～31日（月）に、関東甲信越地区の国公立大学13校が参加する「第64回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度は筑波大学が主幹校を担当し、宇都宮大学、茨城大学を含めた三校が当番校となり大会運営を行いました。今回の大会では、弓道部が男子個人優勝、硬式野球部・サッカー部が3位入賞を果たすなど、参加した13団体を合わせて市大学生201名が日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、輝かしい成績を収めることが出来ました。

本大会は大会規模が大きく、遠方での試合もあるため、後援会からの補助金を選手の遠征費等に充てさせていただいております。毎年頂いている体育会運動部全体に対するの援助により円滑な活動が出来ています。心より感謝いたします。

来年度は山梨大学が主幹校となり、山梨県、群馬県、埼玉県を会場として開催される予定です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 今津 哲史



クラブ活動

● アメリカンフットボール部

私たちアメフト部は、関東アメリカンフットボール連盟の3部に加盟しており、秋季に行われるリーグ戦に向けて週5日活動をしています。

目標は「2部昇格」です。他の大学に比べて人数が少ないチームではありますが、チーム内で切磋琢磨しながら、日々の練習に取り組んでいます。また、練習時間外に積極的にウエイトトレーニングや戦術の確認なども行なっています。全ては勝つためです。

アメフト部はコーチを含めたOBの方たちに加え、後援会のご支援のおかげで、日々円滑に活動を行うことができています。そういった方々の支えで、私たちはアメフトができています。そのことをきちんと部員一人ひとりが認識し、感謝の気持ちを忘れずに、今後の活動に励んでいきたいと思えます。

近年、満足のいく結果を残すことができおりませんが、一戦必勝で必ず2部昇格の目標を達成したいと思います。また、人間的にきちんと成長し、誇りの持てる部活動にしていきたいです。今後ともアメフト部をよろしく願いいたします。

アメリカンフットボール部 主将 岸下 恭介



水泳部

私たち水泳部は昨シーズンから新たな顧問を迎え、その方の専門的な知識と巧みな指導方法により今着実に実力を伸ばしている部活です。部員は経験者から25mしか泳げなかった初心者までいますが、皆自分のベストを更新するべく日々練習に励んでいます。



今年は全部員が関東学生選手権に出場、さらに一部の部員は全国国公立選手権に出場するなど非常に良い結果を残すことが出来ました。先日行われました関東甲信越大学体育大会でもほとんどの部員が決勝に進出しました。

このような好成績を残し日々活動することができているのも、顧問や水泳部OB・OGの皆様、また、大学関係者の方々や後援会の皆様のご支援あっての事だと思っております。大変感謝しております。これからも皆様のご支援にえられるように活動を盛り上げていきたいと思っております。水泳部を今後ともよろしくお願い致します。

水泳部 主将 三原大昂

アカペラシンガーズvoxbox

私たちアカペラシンガーズvoxboxは部員100名を超える、横浜市立大学の中でも大規模な部活です。部活単位では春ライブ、新入生ライブ、夏ライブ、浜大祭ライブ、冬ライブと年5回の大きなライブを開催し精力的に活動しています。その他にも地域で行われるイベントにも積極的に参加してアカペラを行っています。またバンド単位でも大会やライブハウスでの演奏に参加しています。特に夏ライブは一年で最も大きなライブであり、外部のホールを借り趣向を凝らしてアカペラライブを行うという枠に収まらないエンターテインメントをお届けしています。

そんなアカペラライブを開催するにあたって必要な音響機材や照明機材、また会場を借りるための費用などは後援会の皆様のご補助金によって支えられています。これからもvoxboxは学内ライブや外部ライブなど様々な活動を行っていきますので活動をご覧になって頂ければと思います。そして今後とも後援会の皆様にご支援を頂ければ幸いです。

アカペラシンガーズvoxbox 部長 羽根 雅人



天文部137MeL

私たち天文部はサークルから部活に昇格してから、まだ1年しか経っていない団体です。部員数は3年生が12名、2年生が31名、1年生が46名の約90名で年々増えています。部員は全員星が好きで、知識を深めるため週に1回放課後夜遅くまで観測をしたり、機材の使い方を学んだり、写真を撮ったりして活動しています。また、流星群等の天体イベントがある時はお寺や砂浜に集まり、夜通し観測しています。ただ、横浜で見える星の数には限界があるため、冬に2回、夏に2回、より空が暗くて星が見えるところへ合宿に行きま

す。最近、子ども相手に天体の楽しさを伝えるため、地域の方々と協力して小学生を対象とした星空観望会を企画したりと、活動の幅を広げています。

部活動に昇格して間もない天文部には機材が無く、初期投資に後援会の皆様から頂いた補助金を充てさせて頂きました。おかげさまで私たち天文部は本格的な活動をすることができています。部内だけでは無く、多くの人、多くの団体に関わっていきけるような部活にしていきたいと考えており、感謝の気持ちを伝えられるよう日々精進していきますのでこれからも何卒よろしく願いいたします。

天文部137MeL 部長 塚本 俊太郎



International

国際交流

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を用意しています。後援会の支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

また本学では、平成27年度も、学生からの様々なニーズに応えるべく、新たにプログラムを増やしました。リヨン第3大学、マレーシア科学大学への交換留学のほか、イギリスへの夏季語学研修をリニューアル・増設しています。

学生派遣プログラム

	学生数 (予定)	プログラム名
語学研修 (英語)	14	ディーキン大学夏季語学研修 (オーストラリア)
	19	NEW! H27英国大学夏季語学研修 (サセックス大学、バース大学)
	(20)	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春季アカデミックスキル研修 (アメリカ)
語学研修 (中国語)	(10)	上海師範大学春季語学研修 (中国)
語学研修 (フランス語)	3	ソルボンヌ言語文明講座 (フランス)
夏季講座	1	UCLA夏季講座 (アメリカ)
交換留学	2	上海師範大学 (中国)
	3	ウィーン大学 (オーストリア)
	(2)	仁川大学校 (韓国)
	1	タマサート大学 (タイ)
	1	ベネチア大学 (イタリア)
	2	NEW! リヨン第3大学 (フランス)
	1	NEW! マレーシア科学大学
長期派遣	2	ブリッジプログラム
	(10)	セメスター留学
	(5)	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

海外フィールドワーク支援プログラム

所属	学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	7	カナダ (バンクーバー、ビクトリア)
	(10)	オーストリア (ウィーン)
社会関係論コース	(17)	ドイツ (ベルリン、クラフフ)
国際文化コース	18	アメリカ (ニューヨーク)
	(14)	フランス (パリ、リヨン)
地域政策コース	(17)	スウェーデン (ウプサラ、ストックホルム)・イタリア (ベネチア)
グローバル協カ コース	18	ベトナム (ホーチミン)
	5	中国 (北京、吉林)
経営学コース	19	フィリピン (セブ)
	14	タイ (バンコク)
会計学コース	11	タイ (プーケット)
経済学コース	15	中国 (上海)
看護学科	4	ブラジル (南リオグランデ州)
	(10)	フィリピン (イロイロ市)
物質システム科学 専攻	25	台湾 (台北)
生命環境システム 科学専攻	15	台湾 (台北)
	8	メキシコ (メキシコシティ、グアナフアト、カンクン)
	(5)	アメリカ (カリフォルニア)

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

所属	学生数 (予定)	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (環境ユニット)	14	インドネシア (ワカトビ)
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	8	韓国 (仁川)
アカデミックコンソーシアム (公衆衛生ユニット)	5	フィリピン (マニラ)

海外インターンシップ

国・都市名	学生数 (予定)	実習先
アメリカ・ サンディエゴ	1	Japanese Friendship Garden San Diego
アメリカ・サンディエゴ	1	Japan Society of San Diego and Tijuana
アメリカ・テンピ	1	Certification Partners LLC
アメリカ・シアトル	1	Ten Thousand Villages Seattle
イギリス・ロンドン	1	読売新聞 欧州総局
中国・上海	1	旭化成投資有限公司
韓国・ソウル	1	KPMGサムジョン会計法人 / ソウルジャパンメディア
韓国・ソウル	1	ベストフレンド韓国語学校

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約30か国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会 (CIEE) が提供しています。

H27 (夏) 派遣国実績

アイスランド、ドイツ、フランス、オランダ、ニュージーランド、オーストラリア、インドネシア、トルコ、ベトナム、アメリカ、カナダ

International

学生派遣プログラム

英国夏季語学研修 (バース大学)

国際文化コース 3年 浦 萌々理

私はイギリス文学・文化を専攻としているため、英国バース大学夏季語学研修に参加することにしました。プログラムでは単に英語を学ぶというのではなく、英語を用いながら様々な国のクラスメートと時には英国の文化について、また時には犯罪についてなどの深いディスカッションを繰り返しました。自分とは違うバックグラウンドを持つ友達の見解を多様な方面から取り入れることができたことと、英語で意見を述べることに自信ができたことの2点がこの二週間で得た大きな成果となりました。



また、そこでできた中国人の友達が中国料理を振舞ってくれたり、ドイツ人やイタリア人やスペイン人の友達とパブに行き、遅くまで語り合ったりなど、国を越えての繋がりを広げる良い機会を持ってました。

今後もこのようにここで学んだ多くのことを生かしていきたいと思っております。応援してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

上海師範大学交換留学

経営学コース 3年 山下千晴



上海での生活は毎日新しい発見があり、本当に充実していました。週5日の授業のほか、将来先生になるための勉強をしている現地の学生と交流し、恵まれた環境で中国語を勉強することができました。また、ドイツやインドネシアなど様々な国の留学生と友達になり、今なお交流しています。彼らと一緒に勉強や食事、買い物をするのは、新たな価値観や文化に触れる良い機会となり、視野が広がりました。私は、この留学を通して、たくさんのかけがえのない経験をし、大きく成長できたと思います。これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも中国語の勉強を続け、留学で学んだことを生かして、大学での勉強や就職活動に精進していきたいと思っております。この留学にあたり、サポートして下さった後援会の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

経営学コース 3年 大和はるか

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラムに参加した5か月間は、人生の中で最も濃密で刺激的な日々でした。カレッジプログラムでは、フロリダ州にあるWalt Disney Worldでの週5日の就労とディズニーの授業、そしてバレンシア大学の授業を受けながら寮生活をしていました。このプログラムには世界各国の学生が参加しており、いわゆる“ダイバーシティ”のど真ん中での就労・勉強・生活は、チャレンジの連続で、大きな成長の機会でした。

第二言語である英語で接客する緊張感は何事にも代えがたいものでした。より高いコミュニケーション能力の必要性を感じ、積極的にゲストと話すと同時に、新たな英語の言い回し・単語を必死に吸収しました。それに加えて、より効率的に作業をこなし、ゲストの楽しい時間を作り出すことを常に第一に考え仕事をしました。

プログラムを通じ、言語の壁がある中でグローバルな社会で私たちが勝ち残るためには、人一倍のコミュニケーション能力と頭をフル回転させながら行動し続ける貪欲さが必要であると私は確信しました。

後援会会員の皆様のお力添えがあったからこそ、私はチャレンジと成長への一歩を踏み出すことができました。皆様に心より感謝申し上げます。



海外フィールドワーク支援プログラム

フィリピンフィールドワーク

経営学コース 3年 宮澤 美優



今年の夏、芦澤ゼミ初の海外フィールドワークが行われました。芦澤ゼミは実践による学びを重視し、過去2回「起業体験プロジェクト」を実施しましたが、今回はこの海外版でした。具体的には、フィリピン・セブで行われた日本祭に、現地メンバーと協働で2日間日本食の店を出すというものでした。

現地入り前から現地メンバーと英語で準備をし、数々の問題に全員が真剣に向き合って解決し、芦澤ゼミが掲げる「全員リーダーシップ」を体感できました。一方で課題もあり、海外ビジネスの難しさ、そして語学力の重要性に改めて気づきました。

新興国にあるセブは、私には衝撃的なことも多く、刺激をたくさん受けました。また、セブの人々の前向きな姿勢や優しさに助けられ、彼らと友情を育むことができました。そして、今後も海外に関わっていきたいと思いました。

このような経験ができたのは、大学関係者の方々、後援会の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

海外インターンシップ

実習先：KPMGサムジョン会計法人／ソウルジャパンメディア

国際経営コース 4年 江山夏海

私は以前より税理士試験の勉強をしております。試験勉強からは得ることのできない成長や発見、変化があると思い、大学3年生の夏休みに韓国での約1か月のインターンシップに参加しました。このプログラムは、会計事務所と事業会社という全く異なった業種の二つの企業での実習が組まれており、前者では資料作成や税務相談の立ち会い、後者では不動産事業や代行事業の補助を行いました。自発的に行動すること、正確に自分の意思を伝えること、この二点を常に意識し責任を持って任された仕事を全うすることが出来たことは自分にとって非常に自信となりました。また、多種多様な人々や考え方やキャリアに触れ、自分の狭い価値観に衝撃を与える機会でもありました。

このような貴重な経験を支援して下さった後援会の皆様をはじめ、協力をして下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



国際ボランティア

派遣国：ベトナム

国際教養学系 2年 堂本勉美



私がベトナムで国際ボランティアに参加した理由は2つあります。一つ目は外国人が多く集う場所で文化交流し英語を身に付けたいと思ったからです。二つ目は興味のある児童と触れ合うボランティアを体験してみたいと思ったからです。初めは特にベトナムという国にこだわる理由もなく参加した国際ボランティアでしたが、本当にベトナムで良かったなと感じました。多くの方が言葉が通じなくても優しく接して下さいました。また、初めはコミュニケーションが取れなかった英語をべらべら話す欧米からのボランティアの方々とも最後には話せるようになって、大きな自信になっていったように思いました。ベトナムの子ども達とも言葉は通じないけれど仲よく遊ぶことが出来、態度でみせるコミュニケーションの在り方を大切に感じました。この貴重なベトナムの経験を活かしてこれからも大学生活を充実させていきたいです。

アカデミックコンソーシアム※

2015年9月11日(金)、12日(土)の2日間にわたり、アカデミックコンソーシアムのイベントが横浜市開港記念会館で開催されました。初日は、国際学生フォーラムが開かれ、本学を含むアカデミックコンソーシアムのメンバー大学の学生たちが、学習成果や活動報告を英語で発表しました。韓国、フィリピン、インドネシアでアカデミックコンソーシアムに関わるフィールドワークを行った本学学生のグループも、それぞれ活動報告を行い、大勢の聴衆の前で、質疑応答も含めすべて英語でこなしました。2日目の国際シンポジウムでは、その成果をポスターセッションとして展示し、一般にも公開しました。都市の課題をテーマとした国際共同研究やフィールドワークなど、アカデミックコンソーシアムの活動を通して、メンバー大学の学生・教員の交流を深め、大学間のネットワークを活かし、教育や研究を発展させていきます。

※アカデミックコンソーシアムは、横浜市立大学が事務局をつとめる都市の課題解決を目的とした大学間ネットワークで、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシアの大学が参加しています。



キャリア支援センターでは「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標とし、学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業セミナーなどさまざまなキャリア支援に関する講座やイベントに参加することができます。さらに単位認定も可能である国内・海外インターンシッププログラムでは、グローバルな視野を身に付けたり、企業や職業を深く理解するきっかけを得ることができます。平成27年度からは、自分自身と自分がおかれている世界を多角的に捉え、豊かなキャリアを築くために大切な視点や考え方を身につけるための講義であるキャリア形成実習(キャリアデザイン)を開講し、またUターン・Iターンを支援するため、全国10大学と「就職支援パートナーシップ制度」を締結するなど、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

<p>キャリア・就職相談</p>	<p>専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から、履歴書、エントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。キャリア・コンサルタント配置費用の一部を後援会より助成いただいています。</p>
<p>就職支援講座・イベント</p>	<p>一年を通して、合同企業セミナーや就職ガイダンス、業界研究入門などの多彩なイベントを実施しています。また、公務員講座を学内で行うなど、就職支援講座も充実しています。各種イベントでは、多くのOB・OGの方をゲストとしてお招きしています。</p>
<p>キャリア形成実習 (キャリアデザイン)</p>	<p>主に学部の1年生を対象に、仕事や就職だけでなく、これからの人生を歩んでいくために必要な観点を得ることを目標にした講義です。OB・OGの方をスピーカーとして招き、学生時代の経験が社会に出てどのように活かされているか、社会に出るとはどういうことか、といったことをお話しいただく機会も設けています。</p>
<p>インターンシップ</p>	<p>民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。※1年次後期以上対象 海外インターンシップについては、9ページをご参照ください。</p>
<p>キャリアサポーター制度</p>	<p>キャリアサポーターとは、在学生の就職支援を行うOB・OGの方です。学生が直接連絡をとり相談ができ、現在約1,000名の方に登録いただいています。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在学生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいています。</p>
<p>キャリアメンター制度</p>	<p>就職が内定した学部4年生/修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生/修士1年生に対して、相談・指導する制度です。学生同士の交流を目的とした「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成いただいています。</p>
<p>書籍・DSソフトの貸出し</p>	<p>キャリア、業界、職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出ししています。書籍やソフト購入の一部は、後援会より助成いただいています。</p>
<p>YCU Portalによる情報提供</p>	<p>本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約や求人票、インターンシップ情報の閲覧等オンライン上でキャリア支援を行います。</p>
<p>就職支援 パートナーシップ制度</p>	<p>本学学生が下記全国10大学で求人票の閲覧や就職相談が受けられる制度です。 国際教養大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学</p>



入学から卒業までの流れ

学年	1年	2年	3年	4年
支援内容	新入生オリエンテーション			進路報告
	キャリア形成実習 (キャリアデザイン)			
	キャリア面談		就職・進路相談	
		書籍・DS貸出し		
		YCU Portal の活用		
			就職ガイダンス	
			合同企業セミナー	
			キャリアメンター制度	
			キャリアサポーターとの集い	
			OB・OG訪問 (キャリアサポーター制度)	
		就職支援パートナーシップ制度		
		公務員講座		
		国内・海外インターンシップ		

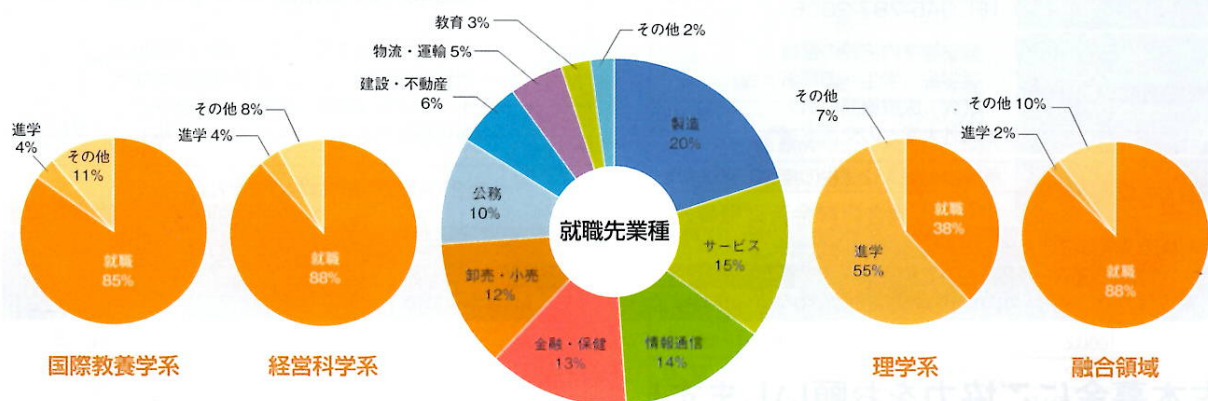
卒業生進路

就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など、卒業後の進路は様々です。経営科学系、国際教養学系、融合領域など文系の学生は80%以上が就職を希望し、理学系では約55%の学生が進学しています。平成26年度卒業国際総合科学部全体の就職率は98.0%となり、全国平均を1.3ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開するさまざまな分野の民間企業への就職のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多く、就職後の状況は各企業から高い評価をいただいております。

◆平成26年度国際総合科学部 卒業生進路状況 (平成27年5月1日現在)

コース名	人間科学コース			国際文化創造コース			政策経営コース			国際経営コース			基礎科学コース			環境生命コース			ヨコハマ起業戦略コース			合計
就職率	98.8%			96.1%			97.4%			99.5%			96.0%			96.7%			97.4%			
進路	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	
男	23	3	3	29	1	6	41	3	8	108	5	11	14	27	3	7	23	2	18	1	4	340
女	59	2	9	45	1	3	34	1	2	83	2	3	10	12	0	22	15	4	58	1	5	371
合計	82	5	12	74	2	9	75	4	10	191	7	14	24	39	3	29	38	6	76	2	9	711

※その他：留学、資格取得など ※就職率：就職者÷就職希望者数



主な就職先

横浜市役所、横浜銀行、JALスカイ、みずほフィナンシャルグループ、楽天、神奈川県教育委員会、大和証券、キャノンマーケティングジャパン、資生堂 他

主な進学先

横浜市立大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、京都大学大学院、横浜国立大学大学院 他

YCU 近況報告

…このページでは大学の近況をご報告します。

エクステンション講座のご案内

YCU地域貢献センターでは、本学教員の持つ知的資源を活用しながら、市民向けの生涯学習講座を開講しています。
 オススメ講座⇒「1964年東京オリンピックと横浜・湘南」
 開講日：平成28年2月8、15、22日 いずれも月曜日 14:30～16:00
 詳しくは、045-787-8930（地域貢献センター）へお電話いただくか、大学ホームページをご覧ください。他にも多数の講座をご用意しています。

[大学ホームページTOP](#) ▶ 右側のバナー [エクステンション講座](#)

(仮称)学生交流センターが平成28年春に完成します！

現在、金沢八景キャンパスに「(仮称)学生交流センター」を建設しています。1階にはプレゼンテーションギャラリーという名称のエントランスホールを開設。ラウンジや情報コーナーも設ける予定です。2階～4階はスチューデントオフィス（小規模な自主的学習活動スペース）を多数設置し、学生が自由に活動できるフロアになっています。壁面がガラス張りになっていて、学生の活動が見えるように設計されています。



ソーシャルメディアの公式アカウントが充実



http://www.yokohama-cu.ac.jp/policy/socialmedia_list.html

最近ソーシャルメディアによる情報発信や交流が盛んになってきました。YCUでも、Facebook、Twitter、YouTubeにより毎日様々な情報を発信しています。部署ごとのアカウントも充実してきていますので是非ご覧ください。

[大学ホームページTOP](#) ▶ 右側のバナー [ソーシャルメディア公式アカウント一覧](#)

寄附のご案内

YCUでは、YCUサポート募金を創設し、皆様からのご支援をお願いしております。いただいた寄附金は、広く大学の教育・研究・医療のために活用させていただいております。

一方、横浜市立大学後援会では、2号会員（卒業生等）は寄附金制となっております。是非、ご賛同・ご支援くださいますようお願い申し上げます。

	YCUサポート募金	後援会へのご寄附
事務局問合せ先	横浜市立大学 総務・財務課卒業生連携強化等担当 TEL:045-787-2026	横浜市立大学後援会 TEL:045-787-2397
寄附の活用先(具体例)	<ul style="list-style-type: none"> ・教室等学内施設の整備 ・奨学金（学生への経済支援） ・研究・医療機器の購入 ・海外大学との交流支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生活動助成事業（クラブ活動への助成など） ・学習助成事業（ゼミ活動や図書寄贈など） ・キャリア支援事業（就職活動支援など） ・海外研修支援事業（留学やフィールドワークなど）
税制上の優遇措置	所得税、個人住民税の控除の適用を受けることができます。	税金の控除対象にはなりません。
寄附詳細情報はこちら YCUサポート募金 大学HP→右のバナーより ご寄附・ご支援をお考えの方へ をクリック 後援会へのご寄附 http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/kouenkai/joining/index.html		

古本募金にご協力をお願いします！

ご自宅で不要になった書籍類（本・CD・DVD・ゲームソフト等）はありませんか？ご提供いただくと、その買取金額が全額、大学に寄附されます。
 平成26年度は約12,000点、23万円が大学に寄附されました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

[YCU古本募金](#) [検索](#)

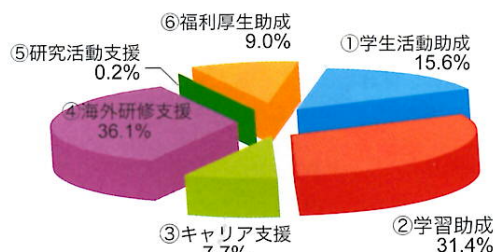


古本募金ヨッチー

後援会の事業は6つの助成・支援事業と広報事業から成り立ちます。

6つの助成・支援事業

柱となる6つの助成事業は①部活やサークル等の課外活動をはじめ浜大祭等の学生活動に対する助成事業②ゼミ合宿等の活動や、学術情報センターへの図書寄贈等学習に係る助成事業③キャリアサポーター(卒業生)や就職内定者(在学生)との交流等の就職活動支援事業、④提携校への留学や短期語学研修、フィールドワーク(授業)、インターンシップやボランティア等、海外での活動に対して、渡航費用の経済的支援を行う海外研修支援事業⑤FD(ファカルティ・ディベロプメント活動)支援等の研究活動支援事業、⑥学長賞等の副賞や卒業祝賀会の経費補助等の福利厚生事業です。全ての助成事業は、等しく横浜市立大学の諸制度を補完し、横浜市大生の学習と生活をより実り豊かなものへとサポートします。これらの事業は後援会ホームページ(<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/index.html>)でご案内致しております



平成26年度決算

●一般会計

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで (単位:円)

科目	26年度予算額	26年度決算額	増減
【収入の部】			
会費収入	43,240,000	43,240,000	0
寄附金収入	2,000,000	2,989,080	989,080
雑収入	3,000	3,842	842
当期収入合計(A)	45,243,000	46,232,922	989,922
繰越収支差額	6,830,156	6,830,156	0
収入合計(B)	52,073,156	53,063,078	989,922
【支出の部】			
事業費	48,344,000	42,380,164	△ 5,963,836
(助成・支援事業)			
学生活動助成費	6,950,000	6,719,734	△ 230,266
学習助成費	14,304,000	13,228,333	△ 1,075,667
キャリア支援費	5,080,000	4,890,633	△ 189,367
海外研修支援費	15,340,000	11,325,828	△ 4,014,172
研究活動支援費	170,000	61,364	△ 108,636
福利厚生費	3,700,000	3,413,365	△ 286,635
(広報事業)			
広報誌発行	2,700,000	2,740,907	40,907
HPメンテナンス	100,000	0	△ 100,000
運営費	3,000,000	2,914,061	△ 85,939
会議費	400,000	328,940	△ 71,060
通信費	100,000	93,153	△ 6,847
事務局費	2,500,000	2,491,968	△ 8,032
当期支出合計(C)	51,344,000	45,294,225	△ 6,049,775
当期収支差額(A)-(C)	△ 6,101,000	938,697	7,039,697
次期繰越収支差額(B)-(C)	729,156	7,768,853	7,039,697

●教育設備資金特別会計

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで (単位:円)

科目	26年度予算額	26年度決算額	増減
【収入の部】			
受取利息収入	5,000	5,749	749
当期収入合計(A)	5,000	5,749	749
繰越収支差額	32,606,167	32,606,167	0
収入合計(B)	32,611,167	32,611,916	749
【支出の部】			
教育環境整備	1,000,000	916,704	△ 83,296
当期支出合計(C)	1,000,000	916,704	△ 83,296
当期収支差額(A)-(C)	△ 995,000	△ 910,955	84,045
次期繰越収支差額(B)-(C)	31,611,167	31,695,212	84,045

平成27年度予算

●一般会計

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位:円)

科目	27年度予算額	26年度予算額	増減
【収入の部】			
会費収入	43,805,000	43,240,000	565,000
寄附金収入	2,900,000	2,000,000	900,000
雑収入	3,000	3,000	0
当期収入合計(A)	46,708,000	45,243,000	1,465,000
繰越収支差額	7,768,853	6,830,156	938,697
収入合計(B)	54,476,853	52,073,156	2,403,697
【支出の部】			
事業費	48,532,000	48,344,000	188,000
(助成・支援事業)			
学生活動助成費	7,010,000	6,950,000	60,000
学習助成費	14,114,000	14,304,000	△ 190,000
キャリア支援費	3,448,000	5,080,000	△ 1,632,000
海外研修支援費	16,230,000	15,340,000	890,000
研究活動支援費	70,000	170,000	△ 100,000
福利厚生費	4,060,000	3,700,000	360,000
(広報事業)			
広報誌発行	3,000,000	2,700,000	300,000
HPメンテナンス		100,000	△ 100,000
大学広報誌(印刷)	600,000	0	600,000
運営費	3,300,000	3,000,000	300,000
会議費	400,000	400,000	0
通信費	100,000	100,000	0
事務局費	2,800,000	2,500,000	300,000
当期支出合計(C)	51,832,000	51,344,000	488,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 5,124,000	△ 6,101,000	977,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,644,853	729,156	1,915,697

●教育設備資金特別会計

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位:円)

科目	27年度予算額	26年度予算額	増減
【収入の部】			
受取利息収入	5,000	5,000	0
当期収入合計(A)	5,000	5,000	0
繰越収支差額	31,695,212	32,606,167	△ 910,955
収入合計(B)	31,700,212	32,611,167	△ 910,955
【支出の部】			
教育環境整備	4,350,000	1,000,000	3,350,000
当期支出合計(C)	4,350,000	1,000,000	3,350,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,345,000	△ 995,000	△ 3,350,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	27,350,212	31,611,167	△ 4,260,955

7月4日に後援会総会が開催されました。

平成27年度の総会は7月4日(土)16時より八景キャンパスシーガルセンターホールで開催されました。

新役員には理事として、新入生保護者より、早川様・中村様の2名が選出されました。

平成28年度後援会総会は、7月上旬の土曜日を予定致しております。

開催期日が決まりましたら、ホームページにてお知らせいたします。なお、お葉書でのご連絡は致しませんので、お手数ですがホームページでご確認くださいませようお願いします。

(<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/index.html>)



横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他の事業に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理事 30名以内
- (6) 幹事 5名以内
- (6) 監事 2名以内
- (7) 顧問 若干名

(役員を選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員任期は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く

2. 職員は、理事会の議を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる
3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する

第13条 理事会は、第5条に掲げる顧問を除く役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めるとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄附金、その他の収入をもってこれにあてる。

第17条 本会の会員の会費等は、次のとおりとする。なお、会費の納入は入学時とし、既納の会費は返還しない。

- (1) 学部においては学生一人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)
- (2) 大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生一人につき30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあつては20,000円とする)
- (3) 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会でを行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。
2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする

附則

(施行期日)

1. 本会則は平成19年6月2日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成26年7月5日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp